

貧困の克服、環境改善、食と農、安心して暮らせる社会の実現…。
地球市民の新しい世界基準『SDGs（持続可能な開発目標）』

みんな幸せつて どんな世界共存学のすすめ

國學院大學経済学部教授

古沢広祐 著

「世界がぜんたい幸福にならないうちは 個人の幸福はあり得ない」

この言葉は宮沢賢治の『農民芸術概論』の中の一文です。

この言葉で賢治が示したのは、誰かの不幸を前提とするような状態では「幸せな世界」とは言えないということです。自分一人だけが幸せな世界は成り立たない、みんなが幸せを共有する状態こそめざすべき道ではないか、ということなのです。

しかしながら、現実の世界に身をおいて考えると、自分の幸福と他の人の幸福が矛盾なく両立する状態や、何が幸福で何が不幸かについてなど、そう簡単に答えが出せるものではありません。あらためて冷静に考えてみる必要があります。本書では、**世界が抱えるさまざまな問題について、多様な角度から掘り下げて理解を深めます。そして、みんなが幸せに生きる世界へ、その道筋を探っていきます。**



1950年東京生まれ。國學院大學経済学部教授。大阪大学理学部（生物学科）卒業、京都大学大学院農学研究科（農林経済）研究指導認定、農学博士。環境問題、農業・食料問題、社会運動、協同組合・NGO・NPOなどを参加型研究する。持続可能社会論、環境社会経済学、総合人間学。

学外活動では、NPO「環境・持続社会」研究センター（JACES）代表理事、NPO日本国際ボランティアセンター（JVC）理事、（一社）市民セクター政策機構理事などを務める。

著書に『食べるってどんなこと？』（平凡社）、『地球文明ビジョン』（NHKブックス）、『共生時代の食と農』（家の光協会）、共著に『共存学1～4』（弘文堂）、『共生社会Ⅰ、Ⅱ』（農林統計出版）ほか多数。

SDGs
理解の入門書
としても
おすすめ

ほんの木